

令和5年度 自己評価計画書

							石川県立小松瀬嶺特別支援学校	
重点目標	具体的取組	主担当	現状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備考	
1 授業実践力の向上	① 【個別最適な学びの充実】 教科の視点で児童生徒の実態、ニーズを捉え、担任及び授業者等、学部全体で情報を共有し、共通理解のもと一人一人に応じた目標や学習内容の設定、評価に努める。	教務課	昨年度、個別の指導計画の様式を変更した。常に教科を意識して表記するよう改訂した個別の指導計画や年間指導計画等の作成により、全教員が「各教科等を含ませた指導」の指導内容を教科の視点で考えるようになってきた。今後は更に「個別最適な学びの充実」という視点も加え、児童生徒の実態、ニーズを的確に捉え、一人一人に応じた目標や学習内容の設定、評価へと広げていく必要があると考える。	【努力指標】 教科の視点で児童生徒の実態やニーズを捉え、学部全体で情報を共有し、共通理解を図ることができる。	児童生徒の目標設定や学習内容、評価等について検討する会を、各部で定期的実施し、話し合いを深めることを通じて、教科の視点で児童生徒の実態やニーズを捉え、学部全体で情報を共有し、共通理解を図ることができた と考える教職員の割合が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	【B以上で達成】 中間評価で未達成の場合は、原因等を分析し、教務課を中心に対策等を検討する。	教職員の自己評価 10月、1月	
	②a 【自立活動の充実】 自立活動の指導での取り組みを各教科等の指導に生かし、教科の目標の達成につながるよう、専門性の向上と指導の課題改善を行う。 【新規】	研究推進委員会 自立活動推進委員会	昨年度の取り組みでは、外部専門家との連携及び先行事例等からの学びを生かし、専門的な知見から自立活動の授業改善を行うことができた。今年度は、各教科の目標の達成のための手立てや配慮点として自立活動の指導での取り組みを生かすことで、自立活動と各教科の指導とを密接に関連付けた効果的な指導への改善を図り、教員の専門性の向上につなげることが望まれる。	【努力指標】 各教科の学びを支えるために自立活動の視点で手立てを考え、各教科の指導における効果的な工夫、改善を行う。	自立活動の指導を生かして、各教科の目標達成につながる手立てや配慮点を工夫した教職員の割合が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	【B以上で達成】 中間評価で未達成の場合は、研究推進委員会、自立活動推進委員会を中心に対策等を検討する。	教職員の自己評価 9月、1月	
	②b			【満足指標】 個別の指導計画等で共有した、児童生徒の課題について、改善が見られる。	自立活動の目標として共有した内容について、児童生徒に実感がもたらされたと感じた保護者の割合が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	【B以上で達成】 中間評価で未達成の場合は、自立活動推進委員会を中心に対策等を検討する。	保護者アンケート 9月、1月	
	③	【GIGAスクールの推進】 GIGAスクール構想の実現に向けて、ICT機器に関する知識を高め、技能を身に付け、授業実践力を高める。	GIGA校内研修推進委員会	昨年度のGIGA研修を通して本校の児童生徒の実態に合ったアプリケーションの紹介等を行ったことで、既存のもの以外にも新たなものを使ってみようとした教職員が増えた。これからは、既存のものに限らず、新たなものにも目を向け、より児童生徒の主体的な活動や意思表示を引き出せるものが何か、どのように活用するのが効果的かを常に考えながら継続して活用していく必要がある。	【努力指標】 ICT機器やアプリケーション、または補助具を授業や学習支援で継続して使用し、成果を報告する。	児童生徒の主体的な活動や意思表示を引き出すために、ICT機器やアプリケーション、支援機器等を授業や学習支援で継続して活用することができた教職員の割合が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	【B以上で達成】 中間評価で未達成の場合は、GIGA校内研修推進委員会対策等を検討する。	教職員の自己評価 9月、1月
2 安全・安心 生き活きた学校づくり	④	医療的ケア委員会	今年度は、医療的ケアのある児童生徒の在籍人数が増え、全学部で医療的ケアのある児童生徒が在籍している。また、小学部においてはすべての学級に医療的ケアのある児童生徒が在籍しており、学級内の教員だけでなく、学校全体・学部全体で連携をとりながら、医療的ケアのある児童生徒一人一人への理解を深めることが求められる。 学級の枠を越えて、それぞれの教員が意識的に医療的ケアのある児童生徒へ関わることで理解を深め、より一層の安全・安心な医療的ケア体制を整えたい。	【努力指標】 学校全体や部内で医療的ケアのある児童生徒について共通理解を図る場を設ける。また、授業等の場面では、医療的ケアのある児童生徒に学級外の教員が関わる場面を意識的に作り、医療的ケアのある児童生徒への理解を深めるよう努める。	教職員・看護師間で連携をとりながら、学級の枠を越えて医療的ケアのある児童生徒に関わり、理解を深めることができた と考える教職員の割合が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	【B以上で達成】 中間評価で未達成の場合は、医療的ケア委員会を中心に対策等を検討する。	教職員の自己評価 9月、1月	
	⑤a	指導課 PTA	土砂災害避難区域に立地するため、緊急時の対応は時間をかけずよりスムーズに実施する必要がある。昨年度実施した災害時伝言ダイヤル体験では、緊急時の活用に対する不安の意見が出た。加えて、保護者がかかわる訓練である引き渡し訓練では、引き渡し方法や連絡方法について、反省や改善の意見が出たため、緊急時の連絡方法に対して、改善策を検討・実施し、検証することが、安全・安心な学校生活を送るためには急務である。	【努力指標】 昨年度反省・改善事項に対する改善策を取り入れ、引き渡し訓練や災害時伝言ダイヤル体験を実施する。	引き渡し訓練や伝言ダイヤル体験に参加し、緊急時の連絡方法が理解できたと感じた教職員の割合が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	【B以上で達成】 中間評価で未達成の場合は、指導課を中心に対策等を検討する。	教職員の自己評価 9月、1月	
	⑤b			【満足度指標】 安心して引き渡し訓練や災害時伝言ダイヤル体験を行うことができた。	引き渡し訓練や伝言ダイヤル体験に参加し、緊急時の連絡方法が理解できたと感じた保護者の割合が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	【B以上で達成】 中間評価で未達成の場合は、指導課を中心に対策等を検討する。	保護者アンケート 9月、1月	
⑥	【効率的・協働的業務の推進】 業務改善に向けて、分掌業務のデジタル化を推進し効率化を進め、業務を分担して行えるようにする。	教 頭	教職員の数が少なく各教職員は並行して幾つもの業務を担当している。各課・各部は年間を通じて、一人一人の教職員の業務を配分しているが、偏りや時期による業務量の差が生じる。各課・各部は、業務の平準化を行ったり協働的に業務を行ったりして、効率よく業務を進める必要がある。	【成果指標】 会議のデジタル化を進め、業務のペーパーレス化を図る。	各課・各部(計6部署)において、業務のデジタル化を進め会議のペーパーレス化をはかり、業務の効率が上がったと感じる課の割合が A 5/6以上 B 4/6 C 3/6 D 2/6以下	【B以上で達成】 中間評価で未達成の場合は、運営委員会及び担当部署で、体制や取組等を検討する。	教職員の自己評価 9月、1月 9月に工夫・取組調査を実施し、教職員で共有	